



北米ホーリネス教団
オレンジ郡
キリスト教会
「週報」

2015年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 聖書日課に励もう
3. 祈り会に参加しよう
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am
 コヒー・アワー : 日曜日 10:45~11:15am
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm
 みふみ会 : 水曜日 10am
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm
 早天祈禱会 : 土曜日 7am
 家庭集会 : 各地区に2箇所
 牧師 : 杉村 幸 (日語部)
 : 益田デーロ (英語部)
 電話 : (714) 827-6244 (教会)
 : (714) 527-1456 (牧師館)
 E-Mail : sugimurai950@gmail.com
 教会ホームページ : www.occc.org
 教会所在地 : 4872 Bishop St.
 Cypress, CA 90630

朝日新聞のような一般紙が、聖書を引用して宣教師の紹介をするのは、あまり例がないと思われるのだが、このリーパー師やストーン師の件は格別である。戦後間もない日本で、アメリカ人が日本人を救うために身代わりとなったという出来事は、日本中を駆け巡った感動のニュースではなかっただろうか。同様に、主イエスが全人類の救いのために身代わりとなって十字架に死んで、よみがえったという出来事を信じた人たちは、狂ったようにローマ帝国を駆け巡って伝道したのだった。それ迄この世に、「人その友のために命を捨てる、これより大いなる愛はない」という愛を知っていた人は一人もいなかったからだ。

朝日新聞の「友のために命を捨てる」
 たまたま机の中から『朝日新聞』の切り抜き(一九八二年九月二十七日付)を手にした。いつかこれを使おうと思っただけでしまっておいたものであろう。
 二十六日は洞爺丸台風の日だった(一九五四年九月)。この日にいつも思い起こされるのが、洞爺丸の乗客として犠牲になったアメリカ人Y.M.C.A.主事ディーン・リーパーさん(当時三十三歳)とカナダ人宣教師アルフレッド・ストーンさん(当時五十二歳)のことである。二人とも、船内が大混乱に陥っているとき、周囲の婦女子たちを助けようとして足場を整理してやり、救命具をつけてやり、慰め励ましつづけた、と当時の新聞などには目撃者の話が出ている。三浦綾子氏の小説『氷点』では、外人宣教師が自分のつけていた救命具を日本人客に渡し、その乗客は助かった、という場面がある。「人その友のために命を捨てる、これより大いなる愛はない」(ヨハネ一五・13)という、彼らの信ずる聖書の言葉を、二人とも実行したことは間違いないだろう。しかし二十八年たった今、この二人のことはほとんど忘れ去られており、わずかに、日本Y.M.C.A.の有志が五年ごとに恩師リーパーさんの記念会を開いているくらいのものである。今年一月、米ワシントンD.C.で旅客機が川に墜落したとき、氷結の川中の男性客が救助ヘリの命綱を二度までも女性たちに譲って命を絶った話は感動を呼び、まだ記憶に新しい。例のアウシュビッツで仲間の身代わりとなってナチスに殺されたコルベ神父は十月十日に「聖人」の列に加えられ、その名は永久に残る。事情の違いはあるにせよ、友のために命を捨てたリーパーさんやストーンさんらの行為もまた、忘れられてはならないと思う。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は1977年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は1921年に創立され、現在は日英両語合わせますと2000名を越える会員になります。

私たちの教会は18世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、3世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白と致します。

